

2011

JULY 7 vol.30

東京成徳広報



中高一貫部 東京スカイツリーを望む



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

- P 3 **巻頭言「震災から学ぶ」**
副理事長 木内 秀樹
- P 4 **学園の動き**
役員・評議員の改選 学園人事
平成 23 年度事業計画 平成 22 年度事業の概要 平成 22 年度決算報告
- P 8 **ひと「活躍する卒業生」**
市議会議員 大塚裕介さん（大学人文学部卒）
- P 9 **国際交流**
香港・マカオ研修 大学人文学部国際言語文化学科
社会交流
義援金募金
- P 10 **学園の防災対策と節電・省エネ推進**
- P 12 **TOPICS**
入学式 大学院 八千代キャンパス 十条台キャンパス
短期大学 中高一貫部 高等部 深谷高校 幼稚園 第二幼稚園
- P 20 **進路状況**
- P 22 **クラブ活動・公開講座 など**
- P 24 **学校説明会・お問い合わせ先**



TOKYO SEITOKU

学園のシンボルマーク
「理想」と「努力」を表す
ブルーの五本の柱は、五つの教育目標を
「活力」と「勇気」を表した
イエローの三本の柱は、学生・生徒と
教職員、同窓生を象徴しています。
そして、八つの柱が一体となり、
東京成徳と学園に集う人々の
ヒューマニティーを
作り上げる姿を表現しています。

表紙 中高一貫部 東京スカイツリーを望む

中高一貫部グラウンドは平成 23 年 3 月に人工芝を張替え、緑鮮やかになった。校舎からは、ビルの間に東京スカイツリーを望むことができる。



震災から学ぶ

副理事長 木内 秀樹

非常事態の対応

本年3月に東日本大震災で被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

現在でも12万人を超える方々が避難所などで不自由な生活をされているとの報道を聞くにつけ、原発事故も重なった今回の災害の大きさに茫然とし、いまだに終息の目途がつかない不安を感じているところ です。

本学園中学・高校でも地震当日は約300名の生徒と教職員が交通手段がストップしたため帰宅できず、学校で一泊する事態となりました。それでも学校の電気・ガス・水道などが無事でしたので、生徒たちには食堂から夕食（おにぎり、唐揚げ）を提供し、交通が翌日復旧してから全員無事に帰宅させることができました。

しかし、電話回線は暫く不通となり、家庭との連絡ができなくなったために保護者の皆様にはご心配をおかけしました。

これらの経験と反省を踏まえて、

これまでの非常事態の対応について見直すこととし、東京直撃の大震災によつて電気・ガス・水道などが使用できない事態を想定して対策を立てることとなりました。その結果、生徒と教職員全員が校舎内で救援を待てるよう、3日分の食糧と飲料水、そして寒さから身を守るための保温シートがセットになったアメリカ製サバイバルキットを全員分用意することにし、既に備蓄を完了しました。特に飲料水については、受水槽タンクに貯水されているため、更に一週間程度の余裕があると思われませんが、地域住民のことも考慮すると飲料水だけはもつと確保することが望ましいと考えられます。プールの水を浄化して飲料水にできる浄水設備、そして自家発電機などの設置なども今後の課題として検討中です。また、電話回線の不通による連絡不能を避けるため、

学校と保護者との緊急連絡方法は特別なメール送信で行うことになり、これも既に変更済みです。校舎については、新耐震基準（昭

和56年）以前の高等部校舎に関して は幸いなことに2年かけて既に強化工事を施工済みでしたので問題ありませんでした。今後、震度6弱の地震があつても建物内の人間の安全が確保される強度となつて いますので安心していただきたい と思います。

大震災の影響は、災害マニュアルの見直しにとどまらず、福島原子力発電所の停止による東京電力管内の計画節電という形で教育現場でも今夏の対応が求められています。

学園としては、節電目標を達成するために、廊下などの照明を落とし、飲料自動販売機の稼働台数を減らしたり、空調機の温度設定を28℃とするなどの取組みを各学校でしているところです。

ライフスタイルの転換

2008年のリーマンショック以来、一段と景気の低迷が続き、日本社会全体の活力が衰えてきているように感じます。そして、今回の大震災によつてその傾向が益々加速しそうな気配です。今後増税などの負担も覚悟しなければなりません。が、さまざまな工夫をして前向きに直接間接に被災地をこれからもずっと応援していきたいと考えて

います。

このところ、地球温暖化を抑制するために省エネ（CO₂削減）への取り組みが急務となつてきましたが、3月以降節電を余儀なくされる中で、結果的に国民的レベルで省エネが実施されています。

実際に節電してみると、今まで便利さに甘えて随分無駄をしていたと気付いたのは私だけでしょうか。

今後、計画節電が解除されたとしても原点に戻って無駄をなくす努力をしていこうと考えています。

むしろこれからの日本のおかれた状況を考えるとライフ・スタイルを根本的に見直し、「幸せ」の質の転換を図らなければいけない時機だと思えます。イギリスを例にとれば、ロンドンでは、市長自らが自転車通勤をして戦略的政策として自転車利用促進を推進しています。二酸化炭素削減だけでなく市民の健康増進を図るといふ狙いもあり、郊外から市中心部まで何本もの自転車専用道路（スーパーサイクルウェイ）を整備中で、ロンドンでは、現在延べ7千人が通勤に自転車を利用しているとのこと。こうしたことも参考になるのではないのでしょうか。

役員・評議員の改選 学園人事 平成22年7月～平成23年7月

平成23年3月26日及び5月28日に開催された学園理事会・評議員会において、役員・評議員の一部改選が行われ、左表の通り決定しました。その結果、役員では、國分康孝理事が退任され、新たに海保博之理事が選任されました。

理事・監事・評議員

役職	氏名	現職
理事長・評議員	木内秀俊	大学学長、短期大学学長
副理事長・評議員	木内秀樹	中学・高等学校長、幼稚園長
理事・評議員	大谷幸男	深谷高等学校長
理事・評議員	○海保博之	大学副学長、応用心理学部長
理事・評議員	黒田定男	大学八千代事務局長
理事・評議員	竹内利行	群馬大学副学長
理事・評議員	中里明彦	成蹊大学名誉教授
理事・評議員	青柳晴久	赤城印刷株式会社代表取締役
監事	大澤健	前深谷高等学校長
監事	黒崎康夫	三協立山アルミ株式会社常勤監査役
評議員	○福本俊	短期大学幼児教育科長
評議員	加々美健一	第二幼稚園長
評議員	○永井聖二	大学子ども学部長
評議員	渡部賢	大学十条台事務局長、短期大学事務局長
評議員	石山賢	法人事務局長
評議員	三上令子	中学・高等学校同窓会長
評議員	遠藤洋子	短期大学同窓会長
評議員	岡田康司	大学経営学部長
評議員	新井邦二郎	大学院心理学研究科長
評議員	津島泰雄	歯科医師
評議員	菅澤喜八郎	元常務理事、前高等学校長

○・・・新任者

〈役員就任〉



理事 海保博之

東京教育大学教育学部卒業。

平成18年に筑波大学教授を退官後、福祉心理学科長・教授として着任。平成21年から応用心理学部長、平成23年に副学長に就任。

平成20年より評議員を務められています。

〈役員退任〉

理事 國分康孝

平成12年に臨床心理学科長教授として着任。図書館長、人文学部長、副学長を歴任し、平成13年より評議員、平成15年から理事となる。学園ならびに大学の発展にご尽力いただきました。

〈名誉教授・学術顧問〉

國分康孝大学副学長、深谷昌志子ども学部長、短期大学中田カヨ子幼児教育科長が退職され、そのご功績に対し、4月1日付けで名誉教授の称号が授与されました。



写真右から 木内理事長、國分前大学副学長、中田前幼児教育科長、深谷前子ども学部長、木内副理事長

また、新たに「学校法人東京成徳学園学術顧問に関する規程」が制定され、國分康孝前理事が学園学術顧問に就任され学園の教育・研究の発展のために助言をいただくことになりました。

平成23年度事業計画(抜粋)

部 門		事 業 内 容
高等 教育部門 大学・ 短期大学	共 通	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質を高める FD・SD ・授業評価の推進 ・海外協定校との学生交流プログラムの実施 ・教員免許状更新講習の実施 ・市民向け公開講座の開催 ・東日本大震災への対応 ・学事日程の見直し検討
	人 文・ 応 心・ 大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・「TSU 就活力パワーアッププログラム」の継続実施 ・八千代キャンパス情報機器のリニューアル ・科学研究費補助金、企業助成等への積極的な応募 ・地方自治体審議会等への人材派遣 ・自治体等が主催する諸行事への学生ボランティア派遣
	子 ども	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員養成課程設置、入学定員増にむけて教育課程等を整備 ・6大学連携事業で研究開発した「教育支援人材育成事業」の遂行
	経 営	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育カリキュラムの充実 ・学修意欲向上のための「懸賞論文コンテスト」「ビジネスアイデアコンテスト」の実施 ・北区の委託による調査事業の実施
	短 期 大 学	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚メディア等を活用し、教育方法を改善充実 ・実習指導の充実を図り、実習先との緊密な連携を保持 ・保育研修会、保育研究発表会、音楽研究発表会の充実 ・韓国白石（ベクソク）文化大学との交流促進
中 学 ・ 高 等 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力定着・伸長とそれによる進学実績の向上 ・「自分深め学習」の推進 ・施設環境等の利用の見直しによる課外活動の充実 ・教育環境の整備（耐震工事） 	
深 谷 高 等 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた進路指導の推進 ・成績最上位層をさらに伸ばすプロジェクトチームの編成 ・中学校設置の検討 ・生徒による授業評価及び自由記述内容の視点等をふまえた授業力の向上 ・教員研修・授業公開の実施、互見授業の実施 	
幼 稚 園	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園将来構想の検討 ・保護者対象講演会等の実施 ・教員研修の実施 	
第二幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・園内・園外研修の充実 ・英会話活動の円滑な導入 ・近隣小学校との連携 ・保護者対象子育てセミナーの実施 	
法 人 本 部	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理体制の見直し、効率化 ・広報誌・HP の充実 ・中期事業計画のフォロー 	

平成22年度事業の概要

学園は創立85年となる平成22年度を終了し、1,661名の卒業生を送り出しました。また、平成23年4月には合計1,817名の入学者・入園者を迎え、平成23年度の学生・生徒・園児数(平成23年5月1日現在)は、5,585名となりました。

この度の「東日本大震災」は、多大な被害をもたらしましたが、本学園の学生・生徒・児童・教職員には、ご自身で被災された方ではなく、また、耐震補強工事が実施されていたこともあって、施設設備の被害も軽微でした。

学園としては、大震災直後における学生・生徒・児童に対する安全確保や計画停電への対応に万全を期すとともに、復旧に合わせ、大学で「家庭が被害を受けた学生に対する学費等の減免措置」を行うなどの対策を実施してきました。

次に、各部門別に主な事業成果をみると、まず高等教育部門では、子ども学部に小学校教諭一種免許課程を平成24年度に設置すべく、入学定員50名増員の認可申請を行いました。

一方、短期大学言語文化コミュ

ニケーション科は、昭和40年短期大学開学とともに設置された伝統ある学科ですが、近年応募者が減少してきたため平成24年度から学生募集を停止することを決定しました。

また、平成23年度から、高等教育部門における教育情報の一層の公表を促進することが義務づけられたこともあり、ホームページを主体に公開情報の充実をはかりました。

中等教育部門では、校舎の耐震化工事などの施設設備の整備を行いました。また、深谷高校が創立50周年を迎える平成25年度を目前に深谷中学校(仮称)の設置についても、検討を開始しました。

幼児教育部門では、教職員の質向上や耐震化工事等の保育環境の整備に努めたことなどにより、平成23年度募集は順調な結果となりました。

なお、詳しくは東京成徳学園ホームページに掲載していますので、御覧ください。

<http://www.tokyoseitoku.ac.jp/report/index.html>

学校法人東京成徳学園 平成22年度決算

資金収支計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで) (単位:千円)

収入の部		金額
科目		
学生生徒等納付金収入		3,968,684
手数料収入		113,110
寄付金収入		42,627
補助金収入		1,580,017
資産運用収入		16,918
資産売却収入		51,990
事業収入		14,708
雑収入		192,783
借入金等収入		800
前受金収入		874,059
その他の収入		226,035
資金収入調整勘定		△ 1,286,842
前年度繰越支払資金		2,487,001
収入の部合計		8,281,890
支出の部		金額
科目		
人件費支出		3,799,975
教育研究経費支出		1,019,171
管理経費支出		291,223
借入金等利息支出		27,943
借入金等返済支出		278,170
施設関係支出		167,198
設備関係支出		104,193
資産運用支出		217,033
その他の支出		121,525
資金支出調整勘定		△ 230,665
次年度繰越支払資金		2,486,124
支出の部合計		8,281,890

消費収支計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで) (単位:千円)

消費収入の部		金額
科目		
学生生徒等納付金		3,968,684
手数料		113,110
寄付金		48,597
補助金		1,580,017
資産運用収入		16,418
資産売却差額		26,817
事業収入		14,708
雑収入		192,805
帰属収入合計		5,961,156
基本金組入額合計		△ 443,400
消費収入の部合計		5,517,756
消費支出の部		金額
科目		
人件費		4,394,913
教育研究経費		1,705,726
管理経費		368,410
借入金等利息		27,943
資産処分差額		18,512
徴収不能引当金繰入額		701
徴収不能額		17,130
消費支出の部合計		6,533,335
当年度消費支出超過額		1,015,578
前年度繰越消費支出超過額		7,314,436
基本金取崩額		23,146
翌年度繰越消費支出超過額		8,306,869

貸借対照表

(平成23年3月31日現在) (単位:千円)

資産の部		金額
科目		
固定資産		44,146,323
有形固定資産		39,998,419
その他の固定資産		4,147,904
流動資産		2,972,236
資産の部合計		47,118,559
負債の部		金額
科目		
固定負債		654,717
流動負債		1,683,765
負債の部合計		2,338,482
基本金の部		金額
科目		
基本金		53,086,945
消費収支差額の部		金額
科目		
翌年度繰越消費支出超過額		8,306,869
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計		47,118,559

ひと

『活躍する卒業生』

大学人文学部日本伝統文化学科

(平成19年3月卒業)

八千代市市議会議員

大塚 裕介さん

市議会議員として地域の活性化を図りたい



大塚さんは、大学卒業後に生まれ育った八千代市でうなぎ屋

「太介」を開業し、店を切り盛りしてきました。その一方で、昨年12月の八千代市市議会議員選挙に出馬し、見事当選、26歳の若さで最年少議員となりました。現在は文教安全委員会に所属され、八千代市の教育の発展に力を尽くされています。

Q. 議員を志した動機、今後の抱負は。

人が大好きなので、人とかかわりの持てる仕事をしたいと考えていたこと、八千代市で生まれ育ってきたため、「八千代市のために」を中

学生の頃から目標にしていました。初めての立候補でしたので、投票日の6ヵ月前から毎朝駅前に幟を立て、通勤される市民のみなさんに挨拶をし、一人でも多くの人と接するよう心掛けました。

「人とのつながり」を大切にし、地域コミュニティ・地域の活性化をはかりたいと考えています。

住民のみなさんはもちろん、地元東京成徳大学をはじめ、他の大学にも参画して市をより活性化できる手立てを考え、実行をしていきたいと思っています。

Q. 大学在学中の思い出は

歴史が好きだという動機から日本伝統文化学科に入学し、千葉を題材にした活動など興味深いものがありました。最近も日本伝統文化学科の「千葉の今を知るプロジェクト」では卒業生ということで学生のみなさんの前でお話する機会を頂き微力ながらお手伝いさせていただきました。また、千葉の観光にスポットを当て市内の酪農なども紹介していただき、市のことを知るには素晴らしいプロジェクトです。

翠樟祭(大学祭)では翠樟祭実行

委員を1年の時から務め、3年生の時は実行委員長としてさまざまな困難を人とのつながりで乗り越え翠樟祭を成功させることができました。また、課外活動学生会議にも参加し、議長を務めました。30人位の委員の意見をまとめるのは大変でした。しかし、大学の規模から顔の見える交流ができ、学生をはじめ先生、職員のみなさんとのつながりを持つことができました。

Q. うなぎ店を開業したのは

寿司店を営んでいた父親と話し、市内の新川沿いとうなぎ店を出店することにしました。そのため東京の老舗のうなぎを食べ歩いて研究したり、産地の愛知県まで見学に行き、卒業して2ヵ月後に開店することができました。「太介」という店名は兄と私の名前から一字ずつとり命名しました。味で勝負しているのでお客様が増えてきています。2年前より、小学校の同級生で偶然に大学にて再会し、学生時代も翠樟祭実行委員とともに過ごした仲の横山雄大さん(福祉心理学科卒)が店を手伝ってくれ私の片腕として頑張ってもらっています。

Q. 後輩へのメッセージ

自分の目標、こうしたいと思うことは信念をもって努力を継続し、あきらめないことが大切だと思っています。困難にもくじけずぶつかっていき、もし目標通りにいかなかったも自分の成長の糧になると思います。就職試験の面接でも、自分の思いを迫力をもって伝えれば、人を動かすことができます。と思っています。

担任をされた金丸和子先生(談)

大塚さんはとても人づきあいがよく、幅広い人脈を持っていました。今でも卒業生の情報が彼のところにも集まってくるのには驚きます。また、野中廣務先生の講演を聞きに行き、講演終了後初対面なのに廊下で挨拶を交わし翠樟祭での講演を



金丸先生を囲み同級生の横山さんと

依頼するなど行動力も抜群でした。幅広い人脈をしっかりと広げ、それを活かして八千代市のために貢献してほしいと思います。

国際交流

大学八千代キャンパス

新入生学外特別授業

成功裡に終わった香港・マカオ研修

人文学部国際言語文化学科

准教授 江澤 恭子



ビクトリアピークにて

国際言語文化学科の1年生が、5月23日(月)から4泊5日で香港・マカオに行ってきました。新入生学外特別授業として海外に出るのは、昨年のシンガポール・マレーシアに続いて2回目です。「初海外」はあらか「初飛行機」という学生もいましたが、全員元気で帰国しました。



香港大学訪問

メイ
ン・イベ
ントは香
港大学の
学生たち
との交流
です。1
ヶ月かけ
て準備し
た班ごと

本当にためになった研修

国際言語文化学科1年 渡邊 千尋さん

初の海外研修でうきうきしていたのですが、生まれて初めて飛行機に乗り、その浮遊感のせいで少し居心地が悪くなってしまいました。特に離着陸時に違和感がありました。しかし現地に着後は大いに楽しんでBasic Englishで学んだことを思い出しながら、何とか会話することができました。ただ英語を話すたびに、いかに自分が不勉強であったかを思い知らされました。日本に帰国したら、本格的に勉強に励もうと思いました。

香港の大学と日本の大学の違いは様々あって実に面白いと感じました。今回の海外研修は本当に自分のためになりました。もっと英語を勉強した

社会交流

私たちのできること

この度「東日本大震災」によって被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を衷心よりお祈りいたします。

学園の各校では、生徒、学生が中心となって学内において義援金募金が行われました。大学キャンパスでは5月に入っても学生が先頭になり復興へ継続的支援を願い、募金が行われています。

中学校、高校では生徒、教職員から募金が集まりました。また、深谷高校では校内のみならず、深谷駅の街頭での募金活動を行いました。

皆さまから頂いた義援金は、それぞれの大学、学校が学生・生徒・教職員の判断のもと「私学ボランティア基金」などの支援団体に義援金として寄付されました。

「行動する」ことは難しいことですが、募金や節電など今やれること、できることを判断し、速やかに行動することによって社会の一員として責任を果たしていくことがかけています。

また、香港出身の留学生の実家にお邪魔できたことも貴重な経験でした。ご両親の大量の手料理のもてなしもあり、心からの歓迎を感じることができた幸せなひと時を過ごしました。

アンケートには「もっと英語を勉強しよう」と決心した」「香港の人は皆とても親切だった」「外国人とコミュニケーションが取れて嬉しかった」などの感想が目立ちました。この研修が今後の学業のモチベーションを高めると信じています。



テーマ「地震」の発表

上で、改めて訪れたいと思います。研修期間が4週間位あればよかったです。

学園の防災対策と節電・省エネ推進

震災当日

本学園では災害時における学生・生徒・園児及び教職員の安全確保のための消防計画・防災訓練マニュアルが定められており、火災発生及び地震発生時の初期対応・役割分担などを定めて定期的な訓練を実施してきました。

3月11日の地震発生時も避難場所への誘導など教職員の冷静な対応が取られました。しかし、地震は交通のストップなどの想定を上回る事態を発生させ、各校は対応に苦慮しながらも、学生・生徒・園児及び教職員の安全確保に努めることができました。

中学・高校、大学は幸いにして授業期間ではありませんでした。それでもクラブ活動や十条台キャンパスでの卒業式を控え、平常よりは少ないながらも多数の生徒・学生が校内にいました。中学・高校では約300人が校舎内で一夜を過ごし、大学や大学院でも帰宅困難な学生・教職員が校内で一夜を過ごすこととなりました。

深谷高校では、通常通りに下校

しましたが、電車の運転が止まってしまった生徒は、幼稚園、第二幼稚園と同様に保護者の迎えにより下校し当日中に帰宅することができました。

学園全体では建物の壁や床の一部にひび割れが生じ、本棚の本が落下する程度の被害がありました。が、人的被害はありませんでした。

耐震工事

学園には昭和56年建築基準法施行令（新耐震基準）以前に建築された校舎があり、耐震性に不安が



耐震補強の完了した高等部校舎

あったため対象となる校舎について耐震診断を行い、平成19年の深谷高校の2号館の耐震補強工事を手始めに、順次十条台キャンパス1号館、2号館、高校（高等部）校舎、幼稚園園舎と工事を進め、平成22年夏迄に耐震補強工事が完了しました。

また、今夏には高校体育館（高等部）の改築が始まり完成すると一連の耐震工事が完了します。

これにより、より地震に強い「安心・安全」の確保がなされます。

備蓄・緊急連絡方法

今回の震災では電気・水道・ガスは使用できましたが、宿泊設備を中学・高校の校舎は備えていません。また、食事の提供という事態も発生しました。食堂からおにぎりの提供を受ける一方、教員が近くのコンビニエンスストアにカップラーメンを買出すことにより生徒に食事を提供することができました。

万一東京都が大震災に遭遇した場合3日間我慢すれば全国から救援物資が到着する予定で、各家庭では最低限3日分の食糧と飲料を確保することが勧められています。中学・高校では、3日分の食

糧、飲料水、保温シートのセットを生徒・教職員全員分備蓄することを決定し、既に備蓄しました。

携帯電話は繋がりにくくなるので、保護者への連絡体制の見直しも図りました。中学・高校では緊急情報を学校から保護者に配信したり、登下校状況を保護者にメールで配信するシステムの Hotcompass を導入しました。深谷高校でも Twitter の導入などを検討中です。

これまでの消防計画・防災訓練マニュアルを見直す必要もあり、各キャンパスではマニュアルを再確認・改訂を進めています。

大学ではオープンキャンパス時には、来校している生徒に初期対応・誘導方を説明することとなりました。

深谷高校ではいち早く4月14日に地震発生時の避難訓練を実施し避難経路、集合場所等の初期対応を再確認しています。

幼稚園でも園児の安全対策、避難方法や、教室に常備している防災頭巾の被り方等の再確認をしています。第二幼稚園では電話連絡ができない緊急時には保護者が直接来園して引き取る方法とすることを5月に確認しています。

節電・省エネ推進

今夏の消費電力15%削減へ

日本政府が「絶対安全」として推進してきた原子力発電の方針は、今回の大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故により大きく転換せざるを得ない状況となりました。

アメリカ・フランスに続き世界で三番目に多く原子力発電所を設置している我が国の対応に世界中が注目しています。この福島第一原子力発電所の事故、さらには浜岡原子力発電所の再開中止などによって東日本の電力不足は特に深刻になっていきます。

文部科学省は5月16日付で学校に対しても大口需要家（契約電力500kw以上）として「夏期の電力需給対策について」通達を出しました。「本年7月1日から9月22日までの平日9時から20時の期間・時間帯の使用最大電力の値（1時間単位）の15%を削減した値を使用電力の上限とする」という内容を発行するための準備を要請されました。昨年度の使用電力は八千代キャンパス・十条台キャンパス共7月下旬、中学高校、深谷高校はともに9月初旬にピークを迎えていました。

学園全体としては省エネルギー目標（定期報告と中間報告）を文部科学省・関東経済産業局に電力・ガスなどの消費を原油換算で提出しますので、運営に若干の制約を伴いますが、よりきめ細かく細心の注意を全員が払っていくことで目標をクリアしなければなりません。

ちなみに平成22年度は酷暑の影響からか冷房によるエネルギー（電力、ガス）消費が前年度より増加し、省エネルギー目標は未達でした。

節電に関する主な具体策は次の通りです。

○繰り上げ授業の実施

大学は8月上旬まで授業（テスト）が予定されていましたが各教員に対して7月20日頃迄に所定の授業（含テスト）を繰り上げておこなうように要請しました。これによりかなりの節電効果が期待できます。

○冷房関係

温度管理の徹底、運転時間、冷房場所を集約。各校の電力冷房の設定温度を28度に徹底する。ガス冷房は「弱」で運転する。各校ピーク時間帯の電力冷房を停止する。

八千代キャンパスはピークカット機能を活用して強制停電にすることを徹底する。フィルターの洗浄・交換により熱効率をアップする。休日・放課後の使用場所を集約する。但し幼稚園は園児の体調管理に十分配慮する。

○照明関係

点灯時間を管理し、点灯箇所も削減する。トイレ、空き教室・会議室などの消灯を励行する。日中の廊下・階段・の照明を消灯する。蛍光灯・ハロゲン灯などの間引き。深谷高校では教室・職員室・事務室・体育館・グラウンドの20時以降の照明を原則禁止しています。

八千代キャンパスでは体育館・ネオンの照明を停止し、グラウンドの夜間照明も当分の間停止しております。十条台キャンパスは電球・蛍光管の間引きを場所ごとに間引き率を定め実施しています。

○その他

・パソコン・プリンター・複写機などの省エネ。
・エレベーターの運行抑制。
・待機電力の停止。テレビ・ウォッシュレット等使用していない電気機器の電源をコンセントから抜く。

・自動販売機台数削減、稼働時間の制限、照明の休止など。

○教職員のクールビズの実施

既に5月中旬より実施していますが期間を10月迄としております。生徒・園児の制服着用期間も変更しました。

この電力危機、なんとしても学園全体で目標をクリアしましょう！
ご協力をお願いします。



運用されている使用電力監視画面（サンプル）

大学・大学院、短期大学入学式

予定通りに挙行

東日本大震災の影響から一部の大学では入学式の当初予定を延期しましたが、幸いにして本学は予定通り、4月4日に東京都港区のメルパルク東京（東京郵便貯金ホール）に於いて高等教育部門の第2回合同入学式を挙行することができました。

開催日が懸念されていただけに当日は大学院21名、大学人文学部81名、応用心理学部154名、子ども学部103名、経営学部100名、短期大学210名が参列し、会場は保護者の方も新入



木内学長による告示

生といっしょに喜びいっばいの笑顔・笑顔でした。

定刻に開式、式辞通り順調に挙行され、木内学長より入学を許可された新入生を代表し各校から1名、3名の学生が力強く決意を表明しました。

短期大学

言語文化コミュニケーション科

代表 上村真奈美さん

私は将来子ども達に書道の楽しさを教えるために書道教室を開きたい。文字を書くことが少なくなっている今、少しでも文字の美しさと書道の魅力を知ってもらいたい。そのためにも本学で書道実技だけでなく書道史等の多くを学び信頼される先生になりたい。素晴らしい夢に向かって努力することを誓います。

大学

子ども学部

代表 飯田綾佳さん

私達と同世代の被災者もきつと大勢いらつしやる中、本日ここに入学式を迎えられることにまず感謝申し上げます。

被災地の無残な状況を見るにつ

け今すぐには何もできない私達ですが、4年間それぞれの分野でしっかり学び、自分のもっている可能性を高め、成長して一人前の大人として復興にご協力できるように努力してまいります。

大学院

心理学研究科

代表 駒沢あさみさん

現在人間のこと、とりわけ心の問

大学院

スクールカウンセリング研究会

大学院心理学研究科

准教授 飯田順子

スクールカウンセリング研究会は、毎月1回土曜日、大学院にて開催されています。本学大学院を修了し、教育関係にすすんだ修了生を中心に、毎回スクールカウンセリングに関するテーマを選んで勉強したり、事例検討を行っています。

今まで行ったテーマには、不登校、発達障害、非行、外部専門機関との連携、学校で使える芸術療法（風景構成法やカラーージュ）などがあります。修了生は皆、小学校・中学校のスクールカウンセラーや、幼稚園・保育園の巡回相談員、市町村の教育相談所の相談員や児童相談所のスタッフ、保健所の発達健診のスタッ

題など目には見えない心理の世界への関心が高まっています。多方面で心理学の知識や技術の需要が増え、複雑多様な人の心への理解と支援が必要とされる時代となりました。私達は臨床心理学を学び、修了後は「心の専門家」として「様々な形で社会に、そして心理学の更なる発展に貢献していきたいです」

フなど様々な仕事をしています。

また、東京、千葉、埼玉、茨城、栃木、静岡など広域で活躍されている修了生が集まっているため、互いの勤務地の地域性の違いや共通点などから考えることも多いです。

修了生のフォローアップという意味合いで始めた会ですが、メンバーから学ぶことが多く、私自身とても楽しんでいきます。また、大学院生も参加ができることになっており、大学院生も在学中から、実際の事例や学校独特のむずかしさややりがい等にふれることができます。少人数のこじんまりとした会ですが、学園（大学院）と修了生、修了生と在學生、教育現場と研究・学問のつながりを大事にした研究会です。

「TSUミニミニ放送局」を開局しました！



<http://www.tsu.ac.jp/ustream/index.html>

なりましたが、こちらはあらかじめ録画・編集した映像を配信するものです。それに対して「USTREAM」は生放送です。緊張感は何倍にもなります。企画段階では、果たして出演してくれる人がいるだろうかと心配しましたが、幸い観光文化学科長の秋山秀一教授が引き受けて下さいました。

2月5日、八千代キャンパスでは「TSUミニミニ放送局」を開局しました。「放送局」と少し大げさですが、要するに、インターネットの動画共有サービスである「USTREAM」を使い、キャンパス内の様々な情報を毎月数回程度、生放送する試みです。

昨年、ひよんなことから「YouTube」は国民的に有名になり、キャンパス内では「You Tube」が人気です。秋山教授は現在、NHKラジオ第1放送の「金曜旅俱樂部 旅に出ようよ」にレギュラー出演しています。まさに放送のプロです。このプロが一肩入れてくれたことで、企画の見通しはとてとても明るくなりました。



秋山教授と丸山実子さんがおくる
「観光教授 秋山秀一の世界旅」

「USTREAM」を開局しました。ご存じの方も多いいと思いますが、秋山教授は現在、NHKラジオ第1放送の「金曜旅俱樂部 旅に出ようよ」にレギュラー出演しています。まさに放送のプロです。このプロが一肩入れてくれたことで、企画の見通しはとてとても明るくなりました。しかし、課題はもう一つ。トーク番組ということ、アシスタント役の方が必要となります。明るく元気、もの怖じせずにカメラの前に立つことができる人、できれば女子アナ風の華のある人がいいなどと考

えてみると、人選は難航しそうです。しかし、ちょうどその時、大学の卒業生（現「日本伝統文化学科」）で、現在は起業家となり「Trainers」という会社の代表を務める丸山実子さんが本学に遊びに来ていました。第一印象で、「この人だ！」とひらめきました。そこで早速、ユーチューブでトーク番組の進行役をしてみませんか」と尋ねてみたところ、なんと、「ええ、やってみようと思います」と二つ返事でした。こうして、まことに心強い2人の出演者が揃い、2月5日に開局を迎えることができました。



第1回 東京成徳大学物語

お陰様で、今のところ放送は順調です。現在、「観光教授 秋山秀一の世界旅」と「東京成徳大学物語」という二つの番組を放送しています。そこに時々、オープンキャンパスの生中継なども放送しています。「観光教授 秋山秀一の世界旅」は、秋山教授が世界中を旅行して見つけた各地のおもしろい話題を、丸山さんとの息の合った(?)トークで紹介していきます。「東京成徳大学物語」は、毎回大学の教職員や大学に縁のあるゲストをお招きし、秋山教授と様々なトークを展開する番組です。第1回目は4月から副学

長に就任された海保博之教授、第2回目は元NHKのチーフアナウンサーで本学観光文化学科の非常勤講師でもある秋山隆氏をお招きしました。秋山教授のプロの技が冴え、素人放送局としてはまずまずのレベルでスタートできたのではないかと思います。今後、素人放送局として、是非一度ご覧いただきたいと思います。(本放送は本学HPの人文学部、応用心理学部サイト右横のバナー「TSUミニミニ放送局」からご覧頂けます。)

子ども学部

「子ども学」とは(リレー掲載⑩)

「心身障害学の視座から」

准教授 那須野 三津子



私たちの世界では、認識の対象にどのような名前をつけるか

世界観が異なる。また、言葉と言葉が表すものとの間には必然性はない。必然的であれば、日本語の子ども学は世界中のどこの言語であっても「子ども学」と呼ばれるはずである。さて、子ども学は、英語で、Children Studies や Child Science などと表現されている。どのような認識の枠組みの中で、それぞれの表現が用いられるようになったのかは興味深い。その違いについては未だ明確ではない。そこで、子ども学と同じく、人を対象とした学問であり、複数分野の学問の融合を目指す心身障害学の知見から、認識の枠組みの違いが学問に及ぼす影響を考えてみたい。

心身障害学(Disability Sciences 近年の障害科学)に似た用語として、障害学(Disability Studies)があ

る。両者は、前者が科学的基盤に基づくアプローチを重視し、後者が障害当事者の寄与を重視している点で大きく異なる。

後者の障害学が台頭した背景には、研究成果が必ずしも障害のある人の支援につながらない例があった。現在では、前者の心身障害学においても、障害当事者のニーズに傾聴する重要性は唱えられている。あわせて、障害当事者間でも利害が常に一致するとはいえず、時には収拾がつかなくなるという現実問題も指摘されている。この問題に対しては、障害当事者のみならず、保護者や実践家などの関与者の融合をどうするか、そのための諸科学の融合はどうかという議論がなされている。

以上簡単ではあるが、類似の表現でも、認識の枠組みによって学問が重視する方向性が異なる例をとりあげた。子ども学は新しい学問分野ではあるが、様々な認識の枠組みを有している可能性が高い。それゆえに、それぞれの共通性や独自性が語られるようになり、その知見がさらに蓄積されることを期待している。

経営学部

基礎演習の実施について

(少人数教育の実践)

経営学部の教育方針の大きな柱の1つとして、少人数教育が上げられます。大学での学びは、高校までの学び方とは全く異なり、学生自らが主体的に行動する必要があるとします。授業に出席するだけでは卒業に必要な単位を取得することはできません。授業で学んだことに関連することを図書館で調べたり、授業以外の時間に教員に質問したりすることも必要です。また、選択肢から正解を選ぶような学習ではなく、時には正解のない問題を深く考え、レポートにまとめることも求められます。すなわち、高校までの「受身の勉強」から、大学での「自主的な学び」へと学習スタイルを転換することが必要になってきます。このように、高校までの学習スタイルと全く違う学び方の基礎を学ぶためには、教員と学生および学生同士が密接な人間関係を築きながら、学生が受け身ではなく主体性をもって参加する「Face to Face」の教育が必要不可欠となっているわけです。そのような少人数教育の代表的なものとして上げられるのが1年生

の基礎演習(基礎ゼミ)です。基礎演習は必修科目で、経営学部の専任教員10名が担当し、新入生は全員ゼミに割り当てられます。今年度の新入生は100名ですので、1クラス10名のゼミとなり、そこで教員と学生が向き合った少人数教育が実践されているわけです。

基礎演習の目的・目標

●基礎演習で学習する目的

- ① 社会を見る眼を養う
- ② 自分の意見を持てるようにする
- ③ 自分の意見を文章で表現できるようにする

●具体的な目標

- ① 日本経済新聞を読む習慣をつくること
- ② メールを使いこなせるようになること(レポート提出はメールで)
- ③ ワード、エクセル、パワーポイントが使えるようになること
- ④ インターネットが活用できる(データベースからの情報収集)

前期は、すでに「日経新聞の読み方講座」を実施し、さらにデータベースの情報収集を学ぶため図書館ツアーを実施しており、これらのスキルを活用して、後半では株式ゲームを実施する予定となっています。

言語文化「ミニユニケーション科」

オーストラリア留学

オーストラリア留学は、シドニーオリンピックの年、平成12年にブリズベンのクイーンズランド大学で3ヶ月留学として始まりまし

た。11回目の実施となった今回は、3ヶ月留学に1名、6ヶ月留学に2

名が参加しました。3名の学生はそれぞれACU、UNSW、マコーレー大学の語学学校の国際クラスに入り、英語研修を終えた後、2週間の職場体験（旅行代理店、ホテル、クルーズ船）に臨みました。

シドニーでの留学生活はあっという間に過ぎたようです。留学した学生もそれぞれ思い出深い留学を送ったことだと思えます。この体験を今後活かしていつてもらいたいと思えます。

1年生 軽井沢学外研修旅行

入学して3週間あまりが経った4月27日より、1年生の学外研修が1泊2日の日程で行われました。行き先は、軽井沢を中心とした群馬・長野方面。目的は、自分の学びの再確認とクラスメートとの友情を深めること、そして担任との交流、そ



して自然に親しむことです。

27日朝、十条台キャンパスを出発。一路、北に向かつて、最初の目的地、群馬県みなかみ町の月夜野びーどろパークへ、昼食後に、入学の記念に、ガラスのキールホルダーの製作。みんながそれぞれ自分なりに製作に取り組みました。

宿泊地は、ホテル軽井沢130。早めにホテルに入り、まずは、浅間山が展望できる屋上で、記念撮影、そして、班ごとにリゾートホテルの施設を自由に探検。夕食は、テーブルマナー研修。フルコースを食べながら、テーブルマナーについて、楽しく解説してもらいました。

2日目は、軽井沢散策。軽井沢タ

リアセンで1時間半ほどを過ごし、それぞれの好みに応じた行動となりました。

天気にも恵まれ、楽しく有意義な研修を過ごしました。

幼児教育科

中田カヨ子科長退任

東京成徳短期大学の創設（昭和40年）以来、今年の3月まで幼児教育科に在職していた中田カヨ子科長・教授が勇退されました。長年、幼児教育・保育の研究と教育に貢献をされた、科運営に尽力された功績は多大なものがあります。退職に際して、2月23日に北区王子の北とぴあ「つつじホール」にて、幼児教育科の在学生と卒業生、教員が一堂に集まり、最終講義が行われました。

現在は非常勤講師として週一日の講義を担当され、引き続き学生指導に当たっています。

福本俊科長の科長就任

4月からは新科長、福本俊教授が



就任いたしました。日本人女子大学に奉職された方で、発達心理学を研究分野とし

て「HOSS(Home Straight Study)」「e」の学、おおかみ学(wolfology)の研究テーマをお持ちです。普段はユーモアがとてもお好きで、周りの人々を和ませてくれる温かなお人柄です。着任時の挨拶の中に「学生の最善に力を注ぎたい」と述べられたことは、改めて教員一同教育の大切さを実感いたしました。科長の就任と同時に2名の教員が着任されました。施設実習担当の大塚良一准教授と保育実習担当の田中浩二准教授です。2人の教員によって、更に実習関係の授業は強化されることになるでしょう。新しい教員の参加は、これまでの幼児教育科の運営に新風を吹き込み、学生指導により効果をもたらすことでしょう。

中国「長笛音楽会」に板本教授招聘

5月19日、北京大学百周年記念講堂の「長笛音楽会」(フルート音楽会)に板本勝百教授が招聘され、フルート作品が演奏されました。このホールは中華人民共和国では最も由緒のある有名な会場です。昨年の10月に開催の予定でしたが、日中間のトラブルで延期されました。この度、無事に演奏会が行われ、演奏・作品の好評と日中友好を促進することとなりました。

中高一貫部

東京成徳大学授業体験

5月27日(金)に一貫部4年生(高1)全員が東京成徳大学八千代キャンパスを訪れ、大学の授業を体験しました。心配していた雨もなく、長時間のバス移動にも関わらず生徒に疲れた様子はほとんどありませんでした。生徒たちが今まで漠然と思っていた「遠い」ということも行きはあまり感じなかったようです。

体験授業は9時30分から11時までと11時10分から12時40分までの合計2時間。自分が希望した講座を受講しました。授業のテーマは心理学や観光学、日本伝統文化など多岐に渡り、生徒は「興味があるから」「将来進学する学部だから」「部活動に活かせるような内容だから」など様々な理由で講座を選んでいました。体験授業そのものだけでなく、自分で授業を選ぶということも生徒にとっては新鮮で大学というものに触れる良い経験になったと思います。

最初は普段より40分も長い90分間という大学の授業に不安を感じた生徒も多かったようですが、いざ授業が始まると真剣な表情に変わ

り、熱心にメモを取りながら教授の話に耳を傾けていました。中には集中力が続かず、睡魔におそわれている生徒もいました。しかし後日生徒に感想を聞いてみると、「90分の授業を経験したら高校の授業がすごく短く感じた」「今から真剣にやらないと大学の授業についていけないことがわかった」など、それぞれ今回の体験授業を経験して思うことがあったようです。

授業終了後は京成線勝田台駅での現地解散となりました。中には帰宅に1時間以上かかった生徒もいたようで翌日は「バスだと遠いと感じなかったけど電車だと遠いところに来たことがよくわかる」と疲れの様子でした。

今回の校外学習で多くの生徒たちが「3年後には大学生になっている」という自覚を持つてくれました。教室で進学情報誌を読む姿を見かけることもあり、進路のことを考えるよいきっかけとなったことをうれしく思います。ご協力いただいた八千代キャンパスの皆様、ありがとうございました。

《生徒の感想》

●スポーツ心理学はためになることばかり教わるのができた。今の自分に何が必要なのか、何が駄目なのかはつきり分かった。自分ももっと物事の考え方を変えようと思った。そして結果を出していけるようになりたい。今日の校外学習で今まで大学について全く無知だったので、大学に触れることができて良かった。でも進路についてまだ具体的に考えられていないので、時間をかけてゆっくり考えていきたいと思う。



●授業時間が長く感じると思ったが、そうでもなかった。今日は体験だったから気楽に受けることができたけど、実際の大学生はすごく大変なのだろうと感じた。自分が精神的にも学習面でも成長しないと手が届かないと確信したからこそ、勉強意欲も増した気がする。今日体験授業を受けて「好き」と思っていた心理学を「興味深い」と思うようになった。これから少しずつ大学や進路を真面目に考えていこうと思った。

自分を深める学習・特別授業「東日本大震災に学ぶ」本当の他者理解とは？

去る5月25日、ヴェリタスホールにおいて、高等部1年生334名を対象に自分を深める学習の一環として「東日本大震災から学ぶ」というテーマの特別授業を行いました。

メディア総合研究所から、福田講師、鷹栖講師を招き、講演会を行いました。講演は約一時間でしたが、映像を使い、具体的資料をグラフで示し、さらにはステージの上に6人の生徒を上げて暗闇の怖さを実際に体験させるという、非常に興味深いものでした。生徒達は真剣に二人の話に聞き入っていました。



3・11の東日本大震災は、歴史的に見ても未曾有の大災害だったといえます。

本校でも首都圏の交通麻痺から、学校に宿泊した生徒が200人を超え、る事態となりました。家庭との連絡もなかなかとれず、ましてや東北の被害状況がどうなっているか知ることができませんでした。翌日、被害の概要を知った私たちは愕然とするばかりでした。

この出来事は、「私たちはこの災害の前に、何をすべきか？どのよう生きるべきか？」という、人生の根本的なテーマを問いかけてきます。この時代に生きていく人間にとって、時代そのものから投げかけられた大きな「問い」なのです。これからの日本の未来を背負っていく高校生にとっては、決して避けて通ることの出来ない、生きる意味への問いかけと重なるものと言えます。

そのために特別講演会は、副題として「本当の他者理解とは？共生とエゴをキーワードに考えよう」というものでした。

「被災者の気持ちをわかったようにな気になってはいませんか？被災地に何かをしてあげよう！などと自惚れた気になってはいませんか？他者を理解するとは、その背景も含め、しっかりと自分で見て考えなければいけない、そして他者の気持ちを



想像することで初めて、被災者、被災地の想いの一部を理解することが出来るんだよ！どうかかな？」そのようなことを問いかける講演でした。

5分間の映像は、「エゴ」というものがいかに自分すらも滅ぼしてしまう危険なものかを訴えるものでした。東京電力の資料は我々がどれだけ東北の原発の恩恵を受けているかを訴えました。また、ステージ上での実験は、暗闇の中で人はどれだけ不安になるか？また他者の的確な助けがどれだけ頼りになるかを体感するものでした。それらの具体的な提示の後、講演はクライマックスを迎えます。「私たちは自分の感情はなかなか変えることは出来ない。しかし行動ならいくらでも変えることは出来ます。他者を本当に理解することというのは自分を理解することでもあるのです。エゴに生きるか？共生を歩むか？つまりはあな

たの生きかたが問われているんですよ」

最後に詩が朗読されました。「何のために生まれて何をして生きるのか？答えられないなんてそんなのは嫌だ！」有名なアンパンマンの歌詞です。みんなが知っている曲ですね。しかしこんなに深い意味が込められていたなんて・・・人間って見ているようで、聞いているようで実はそうでもないことに気づかされました。

特別授業終了後の帰り道、生徒達が「自分勝手に思い込んでいたことが感じてた。」「結局私たちがちゃんと生きるってことが大事なんだよね。」「人のために何かするって簡単そうで実は難しいんだな・・・。」という会話を道端でさりげなく聞くことができ、本当に嬉しく思いました。さすが、東京成徳の生徒。

「学びと生きかたに対して芯をもつ人間に育ってほしい」と願う私たち教師の想いは確実に生徒に伝わっています。

メディア総合研究所の福田さん、鷹栖さん、ありがとうございました。私たち教師は、今後もこのような取り組み、発信を活発に行うべきと強く感じました。

深谷高校

第45回体育祭

一瞬の時 一生の思い出

〜ここぞ団結するとき

主役は君だ〜

6月8日、天気心配されましたが深谷市内の仙元山陸上競技場で、第45回体育祭が開かれました。今回は、学校のグラウンドを飛び出し、市内の仙元山陸上競技場が会場となりました。

整えられた会場では、トラックを使いリレーや綱引き、緑鮮やかな芝のフィールドでは棒取りなど競技が行なわれ、普段と違う環境ながら生徒たちは競技に白熱し、のびのびと体育祭を楽しんでいました。まさにスローガンのごとく一瞬を一生の思い出になるよう、クラスで団結して生徒各々が主役のように活躍していました。

当日は保護者も多数来場いただき、色鮮やかなチームカラーをまとった生徒たちに目を細め、見守っていただきました。



進路ガイダンス

5月27日総合進学コース、保育進学コース、進学コースの3年生を対象とした進路ガイダンスが行われました。

大学、短大、専門学校の担当者を招き、自分の興味、関心のある分野のブースに行って説明を受け、また、質問をすることもでき、進路を決定する上でとても有意義な時間となりました。

既に進路が決まっている生徒も、そうでない生徒も真剣に担当者の説明に耳を傾けていました。



「だーいすきのチカラ」

にっこり考える！

「お母さんの幸せは子どもの幸せ」

講演会 瀬戸口清文先生



6月28日

ヴェリタスホールに於いて、大妻女子大学家政学部児童学科教授の瀬戸口清文先生が保護者の為の講演をされました。幼稚園では23年前から年に一度ですが子どもたちに運動遊びを指導していただいております、また、先生の自作の手話ソングは幼稚園でも子どもたちの手話指導のきっかけとなりました。

現在は大学教授の傍らに運動遊びや手話ソングの作詞や振り付けも手掛けられており幼稚園教諭、保育士等の現場にいる先生の為の研究会等でご指導されています。

会場には250人程の大勢の保護者が大変熱心に聞き入っていました。

瀬戸口先生はMの「おかあさんといっ

しょ」で13年間体操のお兄さんとしてテレビで活躍されました。保護者の方は、幼児の頃にテレビで一緒に体操した方も多くおり大変懐かしんでいました。

講演では「運動」「母港」「庭訓」「ユーモアとお笑い」「達成感や自己肯定感を生きる力」を柱に講演なされ、特にその中で保護者が感銘を受けた事は、「子どもの時代の遊びや運動は生命力に磨きをかける。」「子どもは全身全霊でぶつかってくる！それに対して全知全能で応える!!」、「自分と一緒の時間を共有する。」「心のキャッチボールをする。」「頑張りすぎない頑張り」等々、子育てにおけるヒントを沢山いただきました。

また、実際身近にある、折紙やレジ袋、すずらんテープを使った簡単親子遊びも紹介され、ユーモアを交えたお話を笑いあり、時にはとても真剣に保護者が話を傾けていました。

最後に「コミュニケーションを深めるためのマインドは、ムギュー大好きのお親と性とオチャメナ攻撃性が大きな力となる」と教えていただき会場の保護者はそれぞれの胸にその言葉を深く刻んだことでしょうか。

ちびっこ英会話

今年度から、年中・年長組の年間カリキュラムに、英会話活動（「ちびっこ英会話」）をとり入れていきます。この活動は、①遊びなどを通して英語の音声やリズムに親しむ②外国の人との触れ合いを通して外国の文化や習慣に親しむことなどを目的にして実施するものです。

週に一回、一単位が30分間の限られた時間ですが、子どもたちは外国人講師のもと、How are you? What's your name? My name is...などのあいさつを学習します。また、ABCや天気(Sunny, Cloudy, Rainy, Windy)、色(Red, Blue, Green, Yellow)、数(One, Two, Three, Four, Five、...)などの歌を身ぶり手ぶりで歌いながら、楽しく学習しています。



トールペイント教室

今年度から、母親支援の一環として、「トールペイント教室」を開設しています。この教室は、母親の新たな生きがいの創造に役立てていただくことなどを目的にして、本幼稚園職員の子昭子講師のもと1ヵ月に1回の割合で実施するものです。会員は、本幼稚園児の母親を中心に総勢24名となりました。

去る5月11日に第1回目の例会が開かれ、バラの絵の入ったウエルカムボードの制作に取り組みしました。ほとんどの人が初心者ということもあり、慣れない手つきで緊張しながら絵付けをしていました。この作品はおよそ2ヵ月で仕上げ、その後はお盆や小物入れなどにマーガレット、ヒマワリ、ユリ、スイセンなどの季節の花を描いていく予定です。



進路 進学・就職

東京成徳大学高校

受験生の傾向・特徴

3月11日の大震災後、国公立の後期個別試験や私大の3月入試が延期や中止で混乱する中、最後まで高3生は受験に向かい、最終的には過去最高の数字を出しました。

その概要は以下の通りです。

まず、22年度卒業の生徒（528名）の進路先は、大学406名、短大22名、専門学校49名、就職3名、浪人その他48名という内訳であり、大学進学率は昨年度より上昇して77%となりました。また、大学合格件数は前年比120%増の111件となり、ここ数年来大幅な増加が続いています。これは一般入試受験者が在籍の60%強となったこと、生徒の併願校が全国平均（約6校）を大きく上回っている（約10校）こと、などが大きな要因です。いわゆる「入りやすい大学」ではなく、「入りたい大学」を選び、最後までその第一志望を目指すという指導が定着したこと、確実に合格を勝ち取るための受験校指導にご家庭の理解が得られたこと、などの結果であると考えられます。また、短大への進学者数は減少の一途

をたどり、在籍の4%となりました。専門学校は昨年度より2%増の9%となり、近年の不況もあり、実学傾向の強いこの分野は一定の人氣があるようです。

昨年度の入試結果で特徴的なことは、いわゆるメジャーな大学群（国公立・早慶上理・大東亜帝国）の合格が、全合格件数の6割以上を占めているということです。特に、MARCHは前年の1.8倍（199件）、文・理系難関大（学習院・成城・成蹊・北里・東邦など）は前年の1.5倍（150件）といった大幅増加となりました。近年人気が上がっている明治大では、前年比2.5倍の40件の合格というすばらしい結果です。

難関私立大学（早慶上理）は3名、GMARCH（学習院・明治・青山・立教・中央・法政）は14名、さらに、SSMG（成蹊・成城・明治学院）は、4名へと例年並みに安定的に合格者を出していますが、更なる躍進が今後の目標です。

私立大学

難関私立大学（早慶上理）は3名、GMARCH（学習院・明治・青山・立教・中央・法政）は14名、さらに、SSMG（成蹊・成城・明治学院）は、4名へと例年並みに安定的に合格者を出していますが、更なる躍進が今後の目標です。

今後は理数系希望者の進路実現を図るとともに一層の質的向上を

東京成徳大学深谷高校

平成22年度の卒業生は、287名で、内92%にあたる263名（四大175、短大35、専門学校53）が進学しました。卒業生は個に応じたコースの指導により、目標をめざし、進路を決定しました。

国公立大学

平成22年度に比べ若干総数は減りましたが、東北大学、宇都宮大学への合格者を出しました。特徴としては、埼玉大学、群馬大学や高崎経済大学など、前年に続き地元の国公立大学の進学を目指す傾向が見受けられます。

めざす進路指導の充実に努めて参りたいと考えています。

コース改編（平成24年度より）

平成24年入学生より特進選抜コース・特進コース・進学選抜コース・進学コース・進学コース保育系・総合系とコースを改編します。保育・総合はこれまで入学者を女子に限っていたのを男女共学とします。よって全てのコースが男女共学となります。

これにより入学志願者のニーズへの対応が図られ、生徒への教育効果の向上が期待されます。

平成22年度合格実績 卒業生 528名

国公立大学（準大学含む）	39件
東京工業大学 東京外語大学 お茶の水女子大学 筑波大学 千葉大学 横浜国立大学 東京海洋大学 埼玉大学 首都大学東京 防衛大学校 など	
難関私立大学	253件
早稲田大学 慶應義塾大学 上智大学 東京理科大学 国際基督教大学 青山学院大学 法政大学 中央大学 明治大学 立教大学	
その他私立大学	813件
東京成徳大学	26名
東京成徳短期大学	8名
その他短期大学	25名

平成22年度合格実績 卒業生 287名

国公立大学（準大学含む）	8件
東北大学 宇都宮大学 埼玉大学 群馬大学 山形大学 高崎経済大学	
難関私立大学	17件
早稲田大学 慶應義塾大学 東京理科大学 上智大学 青山学院大学 法政大学 中央大学 立教大学	
その他私立大学	293件
東京成徳大学	10名
東京成徳短期大学	2名
その他短期大学	35名

大学・短期大学 人文学部の進路支援状況

八千代キャンパス学生支援課
キャリア支援担当では、満足度の高い納得感のある進路を勝ち取とることを第一に考え、そのため3年次には一人ひとりの学生と面談を行い、進路希望などを把握したうえで支援を行っています。

3月の震災の影響で一部には採用活動を遅らせた企業もありましたが、中堅・中小企業の大半がほぼ前年と同じペースで採用活動を進めています。厳選採用の方針は昨年同様で苦戦が予想されます。

そのため今年度は5月に急遽3回目となる学内企業セミナーを企画致しました。東証2部上場の電子部品商社や歴史のある機械部品商社、呉服販売大手や地場の有力建設業者・ドラッグストア、千葉県内の大手損害保険代理店や有力フードサービス会社、千葉県指定管理者の福祉施設など、主に採用実績のある9社の人事担当者をお招きして、4年生向けの説明会を5月17日に行いました。参加した学生は真剣に各企業の説明に聞き入っていました。その後参加企業にエントリーした学生も多数おり順調に内定に進む



学内説明会

ことを願っています。

また並行して、活動中の4年生には求人票をもとにアプローチする企業をキャリア支援担当者と一緒にしながら3社以上選ぶ「志望企業マッチング相談会」、実際に企業に提出するエントリーシートの志望動機などを点検する「履歴書・エントリーシート添削指導」、筆記を突破して面接に進むときには個々の学生や企業に応じた「直前面接トレーニング」などを実施しています。きっと良い結果に結びつくものと信じております。

今春卒業した15期生の内定率90%を上回るよう全力で支援いたします。進路に関するご相談はいつ

でも承りますので、どうぞお気軽にお問合せください。

子ども学部の進路支援状況

今春送り出した子ども学部の第4回目の卒業生の就職状況は、内定率で見ると、94%とほぼ前年並みでした。内訳は就職希望者が99%、一般企業の希望者が79%でした。卒業生の約70%が就職を希望しており、小学校、幼稚園、保育園、認定こども園などに決まりました。一般企業の就職先は、金融、婦人服製造、子供服製造、陸運、ホテル、住宅機器製造等と多岐にわたっております。

大学院には2名進学しました。なお、子ども学部の就職率（就職決定率）は87%と前年同様に高い水準を維持しました。

子ども学部では、3年生の前期から各種就職支援プログラムを実施しており、特に3年後期からは進路別に別れてより実践的な講座を行います。就職活動に備えております。

短期大学の進路支援状況

平成22年度も例年になく非常に厳しい状況の中で就職活動が行われました。この結果言語文化コミュニケーション科の一般企業への就

職内定率は、前年を僅かに上回りましたが、66%にとどまりました。就職先は、ホテル、情報機器販売、不動産、運輸、婦人服製造販売、金属製品製造等の広範囲の業種となっております。一方の幼児教育科では、95%の学生が就職（幼稚園教諭、保育士）を目指しており、この分野の就職内定率は前年に引続き100%を維持しました。

このほか、言コミ科と幼教科から合わせて4名の学生が四年制大学に進学（編入）し、2名が専門学校に進みました。また、短期大学全体の就職率（就職決定率）は86%となりました。

短期大学では1年の後期から就職プログラムまた夏季に各種試験対策講座等を実施し年末からの本格的な就職活動を支援しています。



就職内定者による体験談

クラブ活動

大学

女子バスケットボール部

八千代キャンパスでは、キャリア形成および人間力の向上を目指し課外活動が「The課外活動プロジェクト」として取り組まれていきます。平成19年11月プロジェクトの一環として立ち上がった女子バスケットボール部が昨年11月の平成22年度千葉県女子学生バスケットボールトーナメント大会の公式戦初参戦で健闘し、平成23年度第45回関東大学女子バスケットボール選手権大会や、現在行われている平成23年度千葉県春季リーグ戦で好調な成績を収めており、今後の活躍が期待されます。



写真左 キャプテン
渡邊 美沙（健康・スポーツ心理学科3年）

第45回関東大学女子バスケットボール選手権大会（平成23年5月）

成徳大 66 - 101 昭和女子大

成徳大 20 - 0 川村学園女子大

（不戦勝）

成徳大 100 - 29 女子栄養大

平成23年度千葉県春季リーグ戦

（平成23年6月・7月）

成徳大 112 - 45 日大生産工学部



高校

女子バスケットボール部

東京都の全国高校総体（インターハイ）予選で1位になり7月28日より秋田市で行われる全国高等学校バスケットボール選手権大会に東京代表で出場します。

深谷高校

パワースタッフ部

石原悠貴（3年）さんが世界サージュニアパワースタッフ選手権大会の日本代表選手として8月30日からムースジョー（カナダ）で行われる大会に出場します。

文芸部

戸澤千幸（3年）さんが昨年の第9回埼玉県文芸コンクール詩部門で最優秀賞を受賞し、8月に行われる第35回全国高等学校総合文化祭の出場権を獲得しました。

公開講座

東京成徳大学八千代キャンパス

一般公開講座（無料）

会場 八千代市総合生涯学習プラザ

9月

10日 「記憶のメカニズムと改善方法」

加地雄一（福祉心理）

24日 「中国における沙漠化と沙漠化

対策の現状について」

周建中（国際言語）

10月

8日 「記録する旅、記憶に残る旅」

臺純子（観光文化）

15日 「身体運動が能に与える影響」

市村操一（健康・スポーツ心理）

11月

5日 「からだの疲れをほぐそうーリラックスする方法を体験的に学習するー」

石村郁夫（臨床心理）

12日 「学校再生の試みー今、学校

で何が起きているのか」

神谷純子（共通領域）

19日 「『枕草子』と平安時代の撰

政治ー『清涼殿の丑寅の隅の』

段を読むー」

小林朋恵（日本伝統文化）

秋期公開講座（有料）

教養、韓国語、中国語など数回にわたる講座を開講します。

問合せ公開講座 TEL 047-488-7103

詳細はホームページにて

東京成徳短期大学

第25回 東京成徳短期大学

保育研修会

『今こそ夢を語ろう』

ー今後の保育現場はどう変わっていくのかー

講演会

「これからの時代、保育者に求められる力とは」

河邊貴子先生（聖心女子大学教授）

「これからの時代、保育者に求められる力とは」

河邊貴子先生（聖心女子大学教授）

分科会

第1分科会：「幼児一体化の方向は」
第2分科会：「保幼小連携の実際」

（要録等の情報交換を通して）
第3分科会：「絵はカメレオンのように」
日時 11月13日

会場 十条台キャンパス
参加費 一般2千円、卒業生千円
申込方法等の詳細はホームページにて <http://www.tsc.ac.jp>

ニュース

大学 人文学部

芥川龍之介の手紙を発見

―5月20日『朝日新聞』夕刊―
芥川龍之介が大正8年5月に薄田泣菫（すずきだ・きゅんきん）に送った手紙が、日本伝統文化学科庄司達也教授と岡山大学大学院西山康一准教授により発見されました。手紙には『大阪毎日新聞』に入社した芥川の心境が綴られていたことが判明した旨の記事が掲載されました。手紙は倉敷市が、遺族からの寄贈資料をもとに、「薄田泣菫資料研究チーム」を招集し、庄司教授はその一員としてこの発見に至ったものです。

大学 子ども学部

タイトル

子ども社会シリーズ第2巻

「幼児教育の世界」

編者 永井聖二・神長美津子
出版社 学文社 定価2千円＋税

これまでの幼稚園や保育園での幼児教育は家庭や社会に「子育て力」があることを前提として成り立っていました。その前提が崩壊した現在、幼児教育の原点に立ち戻り、現状と課題を踏まえて、幼児教育の本質に迫る課題の再検討を試みている。広い視野から「幼児教育の世界」を検証し、次世代に何を残さないでいくかを考察している



平成23年度

学園後援会総会開催される

新会長に藪崎氏が就任

6月18日、平成23年度の学園後援会総会が中高一貫部で開催され、木内副理事長より地震発生時の各校の状況、今後の安全対策・備蓄品等について説明がされました。

佐々木会長は顧問の下山武士氏が永眠されたことを報告され、全員で黙祷を捧げました。平成22年度の議事が報告・承認された後、佐々木会長はこのたび会長を勇退し、藪崎精克氏に会長を委嘱したいと提案され、満場一致で承認されました。木内副理事長から感謝状・藪崎新会長から花束が贈呈され、学園後援会の設立以来15年間の会長を務めていただいた佐々木氏に万雷の拍手がおくられました。

閉会後の講演は大学副学長兼応用心理学部長の海保博之教授が「ほめる

② わらう

③ かんしゃ

する」と題し、心の健康に良いポジティブコミュニケーションについて軽妙洒落なお話をされ、会場は爆笑！笑いの渦にまつまれました。

本年度の役員は左記の通りです。

名譽会長	木内秀俊	名譽副会長	木内秀樹	副会長	藪崎精克	幹事	川北水江	幹事	降矢和弘	幹事	星一幸	幹事	保沼幸弘	幹事	佃永美子	監査	石塚京子	顧問	大野林太郎	顧問	水野昭平	顧問	佐々木富也	顧問	荒井千恵子	顧問	三上令子	顧問	藪崎千恵子	顧問	神崎敬治	顧問	金澤清一	顧問	参同
------	------	-------	------	-----	------	----	------	----	------	----	-----	----	------	----	------	----	------	----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	------	----	-------	----	------	----	------	----	----

(○印は新任)



写真右より 木内副理事長、佐々木前会長、藪崎新会長

オープンキャンパス・学校説明会のご案内

東京成徳大学 八千代キャンパス [人文学部・応用心理学部]
7/17 ㊦ 31 ㊦ 8/22 ㊦ 9/25 ㊦ 11/20 ㊦
東京成徳大学 十条台キャンパス [子ども学部・経営学部] 東京成徳短期大学 [幼児教育科]
7/17 ㊦ 31 ㊦ 8/22 ㊦ 9/25 ㊦ 11/20 ㊦
東京成徳大学高等学校
10/10 ㊦ 11/3 ㊦・13 ㊦・27 ㊦ 12/3 ㊦
東京成徳大学深谷高等学校
9/25 ㊦ 10/16 ㊦ 11/13 ㊦
東京成徳大学中学校
9/4 ㊦ 10/9 ㊦・25 ㊦ 11/13 ㊦ 12/11 ㊦ 1/7 ㊦・21 ㊦
東京成徳短期大学附属幼稚園
9/3 ㊦ 10/15 ㊦
東京成徳短期大学附属第二幼稚園
9/17 ㊦



オープンキャンパス・学校説明会は予約不要です。
詳細は各校のホームページをご覧ください。

学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-3927-4116
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp PC http://www.tsu-mobile.com 携帯	
人文学部 応用心理学部	八千代キャンパス入試・広報センター	電話 047-488-1000 (直通)
子ども学部 経営学部	十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳短期大学	http://www.tsc.ac.jp PC http://www.tsc-mobile.com 携帯	
	十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳大学中学・高等学校		
中高一貫部	http://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind	電話 048-854-2151
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室 東京成徳広報 第30号 平成23年7月発行

正誤表

p. 5 学園人事 昇任・異動

大学八千代事務局 配属先

[誤]

[正]

松井貴子 大学院図書室 → 学生支援課

道堀嘉奈子 事務室 → 総合事務室

p. 22 公開講座 東京成徳大学八千代キャンパス

[誤]

[正]

10月15日「身体運動が**能**にあたる影響」→「身体運動が**脳**にあたる影響」

p. 23 ニュース 大学人文学部

[誤]

[正]

薄田泣菫 (すすきだ きゅんきん) → (すすきだ きゅうきん)

p. 24 東京成徳短期大学

[誤]

[正]

<http://www.tsc-mobile.com> → <http://www.tsc-mobile.jp>

東京成徳大学院

8/20 (土) 10/15 (土) 11/19 (日) 12/17 (土)

東京成徳大学八千代キャンパス [人文学部・応用心理学部]

7/17 (日) 31 (日) 8/21 (日) 9/25 (日) 11/20 (日)

**東京成徳大学十条台キャンパス [子ども学部・経営学部]
東京成徳短期大学[幼児教育科]**

7/17 (日) 31 (日) 8/21 (日) 9/25 (日) 11/20 (日)

東京成徳大学高等学校

10/9 (日) 10/23 (日) 11/3 (祝・月) 12/3 (土) 12/11 (日)

東京成徳大学深谷高等学校

9/25 (日) 10/16 (日) 11/13 (日)

東京成徳大学中学校

9/4 (日) 10/9 (日) 25 (火) 11/13 (日) 12/11 (日)
1/7 (土) 21 (土)

東京成徳短期大学附属幼稚園

9/3 (土) 10/15 (土)

東京成徳短期大学附属第二幼稚園

9/17 (土)

詳細については、各学校にお問い合わせください。